



昨年度に引き続き、自転車ヘルメット着用についてのトピック情報を紹介していきます。
さて、昨年度から、ヘルメット着用推進に向けての取組を、学校とPTAとで協議をしていただき、連携した取組を実施していただいているところです。この中で特色ある取組が生まれています。

学校とPTAとが連携した取組

■ 合格者登校日における新入生への自転車ヘルメット着用の啓発

各県立中学・高等学校においては、合格者登校日にヘルメット着用についての啓発ブースを設置いただきました。特別支援学校においても、啓発を行ってくださった学校もあると聞きました。ありがとうございます。今後とも、継続した取組をよろしくお願いいたします。

今回はその中で、PTAとの協議内容から、合格者登校日において啓発を強化した学校をご紹介します。

高知小津高校



高知小津高等学校では、PTA会長さんが、ヘルメットを被った生徒会長等4名の生徒と共に登壇し、新入学生の保護者の皆様へのお願いという形で、ヘルメット着用の必要性についてお話していただきました。これは、PTAとの協議の中で発案され、実現したものです。

その後、事務長さんの発声により、ヘルメット購入に係る助成申請について保護者に呼びかけがあり、当日だけで55名の保護者からの申請がありました。

新入学の準備や心づもりをする合格者登校日において、ヘルメット着用の話題が大きく取り上げられ、保護者がお子様の自転車通学時のヘルメット着用を検討できたことは、とても有意義な機会となりました。



高知工業高等学校では、PTA会長さんのご意向で、合格者登校日に啓発だけではなく、ヘルメットの注文の受付を行いました。実際に、ヘルメットのサンプルを目にし、手に取り、購入を検討する直接的な機会が設定されたことは、新入生の親子に対して着用を自分ごととして考えることにつながりました。

ブースでは、PTA会長さんと生徒会の生徒さんが、ヘルメット着用を直接呼びかけてくださいました。

高知工業高校





この「かぶっとこ通信」では、各校の自転車通学時のヘルメット着用推進に係る取組事例やトピックとなる情報を紹介していきます。

今回は、高知工業高等学校の取組を紹介します。



■生徒によるヘルメット着用をテーマとしたパレードへの参画

生徒22名がヘルメットを着用し、警察と連携した自転車交通安全パレードへ参加

令和3年6月8日、高知南署が主催するパレードに高知工業高等高校の生徒が参加し、県民の方々に自転車の安全利用などを呼び掛けました。パレードでは、白バイを先頭に生徒22名がヘルメットやゼッケンを着用し、高知市棧橋通や百石町周辺の幹線道路を自転車で行き抜けました。



「交通安全宣言」
ヘルメット着用推進
に取り組みます！



自転車乗車時のヘルメットの重要性について、生徒会長から「交通ルールの遵守と交通マナーの実践促進、ヘルメット着用推進について」力強い宣言がありました。多くの生徒さんが登下校等に使用する自転車、もし事故にあった際にも、頭部の損傷を軽減することができるヘルメット。このパレードを通して、世代を超えた自転車乗車時のヘルメット着用・啓発に繋がると感じました。パレードには、PTA会長さんや地域の方の参加もありました。
(取材担当コメント)



この「かぶっとこ通信」では、各校の自転車通学時のヘルメット着用推進に係る取組事例やトピックとなる情報を紹介していきます。

今回は、高岡高等学校の取組を紹介します。



■高岡高等学校 14名の生徒によるヘルメット着用パレード

生徒14名（自転車隊12名、のぼり旗隊2名）が、警察と連携した自転車交通安全パレードへ参加

令和3年6月21日、土佐警察署が主催するパレードに高岡高等学校の生徒が参加し、県民の方々に自転車の安全利用などを呼び掛けました。パレードでは、パトカーを先頭に自転車隊生徒12名がヘルメットを着用し自転車で、のぼり旗隊生徒2名が旗を持ってランニングで、高岡高等学校からサニーマート高岡店まで走り抜けました。その後、安全な自転車利用を呼びかける啓発物の配付を店舗前で実施しました。



「自転車ヘルメット着用には、恥ずかしいという気持ちもあるが、転倒した際には、頭部を守ってくれる自転車ヘルメットの着用はとても大切なことなので、このパレードを通して、少しでも多くの人々が自転車ヘルメットを着用してくれることにつながると嬉しいです。」

生徒会長への取材から



この「かぶっとこ通信」では、各校の自転車通学時のヘルメット着用推進に係る取組事例やトピックとなる情報を紹介していきます。

今回は、自転車ヘルメット着用体験として開始するヘルメットの貸し出しについて紹介します。

～ヘルメットの貸し出しを始めます～

部活動やグループ単位で、ヘルメット着用を体験してみませんか

「高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例（H31.4.1施行）」に基づき、自転車乗車時のヘルメット着用推進に向けて、各学校で取り組んでいただき2年余りが経ちます。少しずつではありますが、ヘルメットを着用して通学する生徒も増えてきています。万が一の交通事故から「自分の命は自分で守る」交通安全意識と自主的に安全行動をとっている姿はたのもしく、応援したくもあります。

一方で、自転車ヘルメットを着用することに抵抗感を抱いている生徒もいます。

「暑い」「面倒くさい」「事故になんか遭うわけがない」「1人で被るのは恥ずかしい」「周りが被るのであれば自分も被る」など。

最近のヘルメットは、軽くて風通しがよく、おしゃれなものも多いです。

体験的にヘルメットを着用してパレードに参加した生徒からも「思っていたより意外とイケる」「ヘルメットを被ってみると安心感がちがう」といった声も聞かれます。

そこで、ヘルメット着用を一定期間体験してもらうために、ヘルメットの貸し出しを始めます。部活動や生徒会、クラスやグループ単位、友達どうしでヘルメットを着用しての通学をしてみてください。きっとこれまでの印象が変わることと思います。



詳しくは、学校安全対策課までお問い合わせください



自転車ヘルメット貸し出し

消毒をしています

（貸し出し期間）3週間以内

（ヘルメット）黒、白、青 各5個まで計15個

（問い合わせ）

県教育委員会事務局 学校安全対策課

（住所）高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号

（TEL）（088）821-4533

※お気軽にご連絡ください。お待ちしております。



かぶって
登校
かぶって安心



かぶっとこ通信

この「かぶっとこ通信」では、各校の自転車通学時のヘルメット着用推進に係る取組事例やトピックとなる情報を紹介していきます。

今回は、須崎総合高等学校で開催された自転車ヘルメット着用推進シンポジウムについて紹介します。

高知県内では近年、交通事故により高校生の尊い命が失われる事例が相次ぎました。これを契機として平成31年4月1日に、「高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行され、保護者の努力義務として、児童生徒に自転車のヘルメットを着用させることが規定されました。

このたび、高知県内の様々な地域から代表生徒が須崎総合高等学校に集まり、各校の現状を踏まえて課題を共有し、ヘルメット着用の重要性について、共通理解を図りました。

まず、東北工業大学の小川和久先生から専門的知見からの講演をいただきました。その後、8校の代表生徒によるディスカッションを行い、高校生から様々な意見が出されました。最後には、各学校生徒による、「ヘルメット着用推進宣言」を行いました。



高校生の率直な意見を通して、自転車ヘルメット着用推進に向けて、真剣に議論する機会となりました。着用を推進するためには、「ファッション性を高めたヘルメットの開発」「着用することで特典がもらえる仕組みづくり」「実用性を知ったり楽しく着用できる環境を作っていく」「ヘルメットを着用することの大切さを伝える場をつくる」など、様々な意見が出されました。

命を守ることができる自転車ヘルメット着用の重要性を、高校生自ら発信することができたシンポジウムとなりました。



かぶっとこ通信

令和3年度
第6号

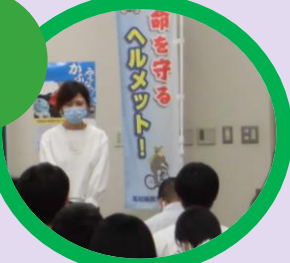
発行：高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

令和3年10月6日（水）に県立中村中学校において開催された
「命を守るヘルメット！」交通安全講演会の内容について紹介します。



■ R3.10.6開催「命を守るヘルメット！」交通安全講演会(県立中村中学校)

講話



講師の塩見絵里香さんは、自身のお子さんが自転車乗車中に交通事故に遭い、一時意識不明の重体になった経験をされた方で、講演では入院中の映像を使いながら、家族の苦しみや後悔を自身の体験を踏まえて、お話してくださいました。



【交通安全講演会の感想】

【ヘルメットの重要性】

講演会を受けて、ヘルメットの重要性について改めて強く感じることができました。

ほんの一瞬の事故が自分の命に関わり、今までできていたことができなくなってしまうと思うと、怖さや悲しさ、悔しさなど複雑な気持ちが込み上げてきました。自分は大丈夫だから、事故に遭わないからヘルメットをかぶらないという行為は本当に危険なことだと感じました。

いつ自分が事故に遭うか分からない、万が一事故に遭っても重症化しないように、これからも正しくヘルメットをかぶって自転車に乗りたいです。



【講演会での教訓】

交通安全講演会を聞いて一番心に残ったのは、自転車に乗るときにはヘルメットをきちんとかぶらないといけないということです。

毎年、自転車の事故が多いと聞き、亡くなった人も多いと聞きます。ヘルメットをかぶっていれば、助かる命もあるということを中心に改めて自転車に乗ろうと思いました。そして、ヘルメットをかぶるだけでなく、交通ルールを守って事故を起こさないようにしたいです。「事故が起きてからでは遅い」という言葉どおり、事故が起きる前に自分の身をきちんと守っていきたいです。

【家族への思い】

交通事故は、自分だけの問題ではないと改めて思いました。自分を大切に思ってくれる家族に心配をかけ、苦しい思いをさせてしまうと考えると、自分のためだけでなく、家族のためにも自分の身は自分で守れるようにしていきたいと思いました。

またヘルメットの大切さも改めて感じ、事故はいつ誰に起きるか分からないので、自分にできる備えをするべきだと思いました。ヘルメットは自由がなく暑いけど、命を守るために必ずつけようと思いました。

塩見さんの話を聞いて、親はどれだけ子供を大切に思っているか、何かあった時に親がどれだけ心配するのかすごく伝わりました。しっかり交通ルールを守って、命を守りたいです。



講演会を終えて生徒達は、「ヘルメットは命を守る大切なもの」「家族に心配させないように、自転車乗車時にはヘルメットの着用を習慣づける」など、今後の自分自身の行動について、前向きな声が多く聞かれました。

みんなあでかぶろうや!



かぶっとこ通信

令和3年度
第7号

発行：高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

この「かぶっとこ通信」では、各校の自転車通学時のヘルメット着用推進に係る取組事例やトピックとなる情報を紹介していきます。

今回は、高知丸の内高等学校の生徒会による自転車ヘルメット着用推進活動について紹介します。

～ヘルメットのレンタルを利用して～

高知丸の内高校の生徒会がヘルメット着用を体験してみました

学校安全対策課では、**自転車ヘルメット着用を一定期間体験してもらうために、ヘルメットの貸し出し**をしています。**部活動や生徒会、クラスやグループ単位、友達どうしてヘルメットを着用しての通学**をしてみませんか。きっとこれまでの印象が変わることと思います。

高知丸の内高等学校では、このヘルメットのレンタル制度を利用した自転車通学を体験し、他人事ではなく、**自分の命を自分で守る**という一人ひとりの意識を啓発する目的で、ヘルメット着用について、生徒会を中心に活動が行われました。

ヘルメット着用を体験した生徒からは、「**ヘルメットを着けていると守られている感じがあった**」「**被るのに抵抗があったが、被ると快適で使いやすかった**」「**安全面を考えるうえで貴重な体験になった**」など、実際にヘルメットを着用すると印象が変わったという声が聞かれました。一方で、「**周りが着けていなくて視線が気になった**」という声もありました。自らの安全行動として、ヘルメットを着用する人が増えてほしいですね。

ヘルメットを着用することにより、交通安全意識が高まります。ヘルメット着用を、自分の命を守る安全行動として考えるようになります。今回の活動を通してヘルメットの重要性を強く感じ、**これを機に購入を検討する**という生徒もいました。

詳しくは、高知丸の内高校生徒会が作成した別添をご覧ください。



自転車ヘルメット貸し出し

(貸し出し期間) **3週間以内**



(ヘルメット) 黒、白、青 各5個まで計15個

かぶっとこ
通信
高知丸の内
高校



(問い合わせ) 県教育委員会事務局 学校安全対策課

(住所) 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号

(TEL) (088) 821-4533

※お気軽にご連絡ください。お待ちしております。



命を守るヘルメット

～生徒会ヘルメット着用推進活動を終えて～

高知丸の内高校 生徒会

全国では自転車事故により年間1000人を越える中高生が死傷しています。その現状を受け、高知県では自転車安全についての条例が平成31年4月1日より施行され、ヘルメットのレンタルや購入費用の助成等が行われるようになりました。他人事ではなく、「自分の命を自分で守る」という一人ひとりの意識を啓発する目的でヘルメットの着用について生徒会を中心に活動を行いました。

◇活動を通じて◇



2-6 山本凌夢

登校中、ヘルメットを被っている人が割と多く、安全面を考えるうえで貴重な体験になりました。



2-2 西本省吾

ヘルメットを着ける事には抵抗があったのですが、実際に着けてみると、思ったより快適で、いつもと同じように学校に通えました。



2-2 竹内頼武

ヘルメットを着けていると守られている感じがありました。しかし、着けていない人が多いので、周りからの視線が気になりました。



2-4 木本寛淳

ヘルメットを着用する前は、自転車競技の競技者が着用するものだと勝手に考えていましたが、実際は街中でも何人が着用している人がいて、あまり浮いた感じはしませんでした。この機に購入を検討してみようと思いました。



～丸の内高校の皆さんへ～

周りがヘルメットを着用している人が少なく、恥ずかしいと思っていましたが、今回の活動を通してヘルメットの大切さを再確認することができました。皆さんも、自分や他者の命を守るためにヘルメットの着用を検討してみてください！





かぶっとこ通信

令和3年度
第8号

発行：高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

令和3年11月11日（木）に県立室戸高等学校において開催された
「命を守るヘルメット！」交通安全講演会の内容について紹介します。



■ R3.11.11開催「命を守るヘルメット！」交通安全講演会(県立室戸高等学校)

講師の塩見絵里香さんは、自身のお子さんが自転車乗車中に交通事故に遭い、一時意識不明の重体になった経験をされた方で、講演では入院中の映像を使いながら、家族の苦しみや後悔を自身の体験を踏まえて、お話しくださいました。

室戸高等学校では、現在ヘルメットの所有を自転車通学の要件としており、来年度からヘルメット着用を校則化する予定です。講演会を終えて、校則化に賛同する生徒が数多く見られる形となりました。今後の自分自身の行動について前向きな声が多く聞かれ、今回の講演会が学校の良い方向に繋がっています。

講話



講演会後の生徒のアンケートから

【登下校時のヘルメット着用の校則化について～今後の自分自身の考え方や行動～】

【ヘルメットの重要性を呼びかけ】

塩見さんのお話を聞いて改めてヘルメットの重要性がよく分かったので、自転車で通学する際にはしっかりヘルメットを着用したいと思いました。

講演会では交通事故に遭った時の気持ちや辛さが伝わってきて、交通事故というのはとても悲惨で苦しいものだ改めて感じました。交通事故の重症化を未然に防ぐためにも、ヘルメットの着用を習慣づけていけるように、ヘルメット着用の校則化に賛成します。

そして、塩見さんが「明日の命は、今日自分の命を守ることだ」とおっしゃっていたので、普段から交通ルールを守って自分の命を守っていき、この言葉を忘れないようにしたいと思います。



【見た目を気にしても...】

「周りが着けていないから」とヘルメットを着けることを恥ずかしがったり、ヘルメットがダサい、髪型がくずれる等の理由で、ヘルメットの着用に抵抗がある生徒もいます。

しかし、講演会を聞いて交通事故の怖さとヘルメットの大切さを改めて実感し、着用を心がけたいという生徒もいました。また、ヘルメット着用が校則化することによって、周りの目を気にしなくなり、校則で決めればみんなも守っていくため、自然にみんなの命を守る校則になると思います。

【家族に心配させないように】

ヘルメットは命を守るだけでなく、今後の自分や家族の生活に大きく関わるため、安全性のあるヘルメットを着用することは大切なので校則化に賛同します。

ニュースで交通事故について報道されることはあるけど、事故に遭った方やその家族の事故後の苦しみを考えたことはありませんでした。今回、講演会で身近に感じる事ができ、ヘルメットの大切さを教わりました。一命を取り留めた後、様々な障害が待ち受けていても、家族みんなで協力して乗り越えていくことが大切だと感じました。

もし自分が事故に遭って怪我をしてしまったら、家族や友達など周りの人たちを心配させてしまうため、ヘルメットをしっかり着用して自分の身を守る行動をし、家族との挨拶もしっかり交わしていきたいと強く思いました。

みんなあで
かぶろうや!





かぶっとこ通信

発行：高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

この「かぶっとこ通信」では、各校の自転車通学時のヘルメット着用推進に係る取組事例やトピックとなる情報を紹介していきます。

今回は、高知工業高等学校による自転車ヘルメット着用推進の取組について紹介します。

高知工業高校は、毎月1回、校門での交通安全啓発をしています。11月は、ヘルメット着用に特化した啓発を行いました。この啓発活動はPTAから「生徒がヘルメット着用を生徒に呼びかける啓発活動をしてはどうか。」という提案があり、実現しました。ヘルメット着用を生徒に呼びかけるために、生徒会が一丸となって啓発活動を行いました。高知南警察署の方たちにも協力してもらい、主体的な高校生の姿が見られました。





かぶっとこ通信

今回の「かぶっとこ通信」では、高知西高等学校、高知国際中学・高等学校において、11月4日に行われた「自転車交通安全モデル校指定式」「第1期『あなたの命を守り隊』発足式」について紹介します。

高知西高等学校、高知国際中学・高等学校の生徒が、地域で交通安全を啓発する「あなたの命を守り隊」を発足させました。中・高校生が主体となった交通安全の取組を通じて、自転車ヘルメットの着用促進や交通ルールの遵守と交通マナーの実践を図り、悲惨な交通事故を防止することが目的です。

また、高知南警察署及び高知県交通安全協会高知南支部などは、3校を「自転車交通安全モデル校」に指定しました。「あなたの命を守り隊」の隊員はモデル校の一員として自らが模範となり、学校全体の交通安全意識の向上を目指して取組を進めていきます。



「あなたの命を守り隊」の発足により、交通安全啓発活動を通じて、「地域社会に貢献する力となること」「児童の手本となる交通行動をとること」「守られる立場から守る立場への意識を向上すること」「他者の視点を知り他者への気遣いの大切さを養うこと」を実践し、地域社会に交通安全の輪を広げていきます。

高知西高等学校の生徒会長は、「自転車ヘルメット着用はもちろん、脇見運転をしないなど、まずは基本的なことから注意を呼び掛けていきたい」と力強く話してくれました。



かぶっとこ通信

8月4日に開催された「高知県高校生ヘルメット着用推進シンポジウム」では、8校の高校生が、自転車のヘルメット着用率を向上させるための方法について意見を交わしました。そこで、須崎総合高校から提案された啓発活動が、5校の連携で実現しました。



県内では毎年、登下校中の高校生による自転車交通事故が発生しており、中には頭部打撲等の重篤な状況につながりかねない事案も見られます。しかし、県内では高校生のヘルメット着用率が思うように上がりません。そこで、高知県内の5校（須崎総合高校・高知工業高校・高岡高校・高知海洋高校・中村高校）の生徒達がはりまや橋付近に集結し、自転車のヘルメットを自ら被り、下記の啓発グッズを自転車通学の生徒へ手渡し、着用を呼びかける活動を行いました。

また、高知警察署や高知県高等学校PTA連合会、ヘルメット姿の「しんじょう君」にも協力してもらい、ヘルメット着用について複数の関係機関が連携した啓発活動となりました。

しんじょう君ヘルメットを被る！
(ヘルメットは須崎総合高校作製)



配布啓発グッズ



ヘルメット姿のしんじょう君のイラストが描かれたコースター（須崎総合高校作製）



これからも呼びかけを続けていって、ヘルメットをつける人を増やしていきたいです。



かぶっとこ通信

今回の「かぶっとこ通信」では、「自転車交通安全モデル校」に指定された高知西高等学校、高知国際中学校・高等学校が、12月17日に「あなたの命を守り隊」としてヘルメットを自ら被って交通安全を呼びかけた啓発活動について紹介します。

安全で安心な交通社会と良好な自転車交通環境の実現を目指すため、自転車マナー向上、自転車ヘルメット着用の促進を図る交通安全啓発活動が実施されました。高知西高校、高知国際中学・高校の生徒が、地域で交通安全を啓発する「あなたの命を守り隊」として、自転車運転で立ち止まった方や、信号で停まった自動車の運転手などに、交通安全啓発物を配布しながら呼びかけました。

高知西高等学校 生徒会長 森田敦也さんのインタビューから

「今回の活動が、地域とのつながりになると、大きな意義はあると思います」

「警察署の方にも協力していただき、交通安全の活動を楽しく行うことができました」

「高知西高等学校、高知国際中学校・高等学校で行っている交通安全活動を知ってもらい、その活動を地域に発信し、地域の方、保護者の方等の交通安全意識の向上につながると嬉しいです」



高知国際高等学校 生徒会長 田村夏凜さんのインタビューから

「私たち高校生が主体的に活動を行うことで、地域の方やドライバーへの交通安全の大きなメッセージになると活動をやってみたいと思いました」

「今後活動を行う際には、声かけ（スローガン）の内容を作っておき、そのスローガンを広げていくことも考えていきたいと思っています」

